中峰明本（普応国師）　７００年遠諱

遠諱法要について

栖雲寺開山業海本浄和尚の師僧である中峰明本和尚の700回忌を厳修します。

正当は令和4年8月14日でしたが、新型コロナウイルスの蔓延や準備の都合で開催できずにおりました。2年遅れとはなりますが、鎌倉の大本山建長寺から吉田正道管長猊下、甲斐恵林寺から古川周賢老師をお迎えし、延在の700年遠諱として国師を称える報恩行にしたいと考えております。

中峰明本について

中国元代の禅僧。25歳で出家し、杭州天目山の高峰原妙について参禅。後に同師が遷化されるまでの９年間を高峰の下で修行。師の死後34歳で天目山を去った中峰は山林江湖を移り行き、行く先々で庵を作ってはそこを幻住庵と呼び、定居なく「幻人」として生涯修行をした。皇帝や大寺からの再三の招きを拒み続け、請われるごとに逃げるように場所を変えての修行。時には舟上に居を構え、ただひたすらに静かな場所での修行を求めた禅僧の中の禅僧である。西天目に戻ったのは23年後の1318年。この年に業海本浄が入元し中峰のもとで修行を始ている。

1323年8月14日、61歳で示寂。11年後の1334年に皇帝より普応国師と諡された。

《報恩事業》

6月　2日(日)	天目山茶会
7月27日,28日(土日)	報恩宿泊坐禅会　業海本浄の章
10月26日、27日(土日)	報恩宿泊坐禅会　中峰明本の章
11月　9日(土)	700年遠諱大法要
11月9日,10日(土日)	宝物風入れ展

鐘楼屋根修繕および移築工事を夏頃に行います。

定例坐禅会のお知らせ

☆毎月最終日曜日　午前6時45分～8時30分　★志納金300円

読経15分・本堂坐禅30分・霊石泉岩坐禅30分・茶礼30分の内容で行います。

初めての方には心得を説明しますので6時40分までにお越しください。

＜発行者＞　臨済宗建長寺派 天目山 栖雲寺　住職 青柳真元
〒409-1201 山梨県甲州市大和町木賊122　TEL 0553-48-2797
ホームページhttp://www.tenmokusan.or.jp　または[栖雲寺]で検索

公式ホームページ　お寺の説明、行事案内など

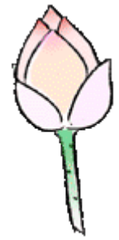
住職日単(blog)　日常をありのままに、住職日誌

Instagram　天目山の写真　*Please follow*

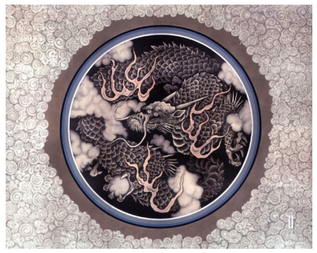
栖雲寺たより

天　目

第４５号
発行日
令和６年１月１日

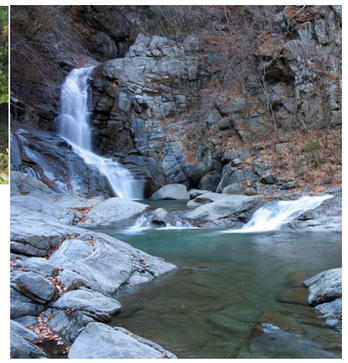


栖雲は竜の栖の比況なり


建長寺の雲龍図

約2,500年前、お釈迦様が御生誕なされた4月8日のこと。九匹の竜が現れると天から清浄な水を降らせました。これを産湯として体を清められたお釈迦様はすぐに七歩あるかれ、右手で天を左手で地を指さし「天上天下唯我独尊」と説法をされました。大本山建長寺の法堂には天井に雲龍図が描かれておりますが、これはお釈迦様の伝説に擬して、堂内で説法をする禅師の法雨（ほうう＝教えの雨、慈悲の雨）が竜の清水のごとく天から降り注ぎ、聴くものの心を潤すようにとの意味があります。

西洋の竜（ドラゴン）は背中に翼があり自分で空を飛び口から火を吐く悪魔の化身としての存在であり、悪魔の使い・倒すべきもののイメージがありますが、反対に東洋の竜は神の化身・水神の使いとして守るべき存在です。翼がないため自分では空を飛べません。雲に栖み、雲に乗って世界を駆け、福をもたらす神です。竜は雲を呼び起こし雨を降らすので、雲龍図には法雨だけでなく火災除けの願いも込められています。


日川渓谷の竜門瀑

栖雲寺の前を流れる日川渓谷の竜門峡はハイキングコースも整備されており、年間を通して多くのハイカーが四季の景色を楽しんでおられます。竜門峡にある『竜門瀑（竜門の滝）』は開山業海本浄和尚が命名した天目十境の一つです。この竜門瀑は中国の故事『登竜門』を表しています。鯉が大河を上り激流を遡り最上流にある瀑を登りきって竜と化す、御承知のとおり立身出世の関門あるいは成功の手前にある難関を意味する言葉が登竜門。修行僧を鯉になぞらえ竜に、つまり修行完成の誓いと願いを込めて業海和尚がお定めになったのです。そしてまた栖雲寺石庭内にある天目十境の一つ霊石泉の脇にも同様の願いを込めたであろう鯉魚石がありますが、これもやはり庭全体を大河に、そして巨石に坐る修行僧を鯉に見立てたのでしょう。禅僧達はみなこの険しい絶壁の日川渓谷を登り、竜門瀑を越え、その先にある栖雲寺の庭で巨石に坐り悟りへの修行をされたのです。天目山は登竜門の故事を当てはめた聖地であり、山全体が修行道場です。そして栖雲寺は雲に栖むお寺、つまり雲に栖む竜神の力を押し頂くお寺なのです。今や巨石の一つ一つは竜の鱗にも見えてまいります。

石庭の鯉魚石(りぎょせき)

今年は辰年です。竜門峡で水神様の御霊験を全身にいただき、天目山を栖とする龍の背に乗って、悟りの境地を目指すべく精進してまいりましょう。皆様の諸願が成就する一年となりますよう心からお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

【令和5年　10月　～　12月の報告】

10月1日　インボイス制度はじまる

栖雲寺とは直接関係ありませんがインボイス制度が始まりました。これは本当に経理泣かせで、私が経理を任されている鎌倉の建長寺では非課税の布施や拝観料の他に消費税10%の物品販売と軽減税率のお土産販売などが混在するので、会計システムの大幅改変と細かい仕訳に四苦八苦しました。電子帳簿保存法なども適用され、本当に経理に厳しい一年でした。

11月　景徳院様とコラボ御朱印

景徳院をお参りすると「天童山」、栖雲寺をお参りすると「天目山」の山号をそれぞれ押印し、２か寺参拝した証として中央に武田菱の三宝印を押す。初めての試みとして、このようなコラボ御朱印を期間限定で行ったところ、多くの方に参拝をいただきました。
次回は桜の頃を予定しておりますので是非お参りください。

11月3日　第３回コスプレ撮影会

鬼滅の刃　胡蝶しのぶ

大人気の撮影会がこの秋も開催されました。多いのは原神と刀剣乱舞のコスプレですが、鬼滅の刃など私の知っているキャラのコスプレもありましたので、今回もまた住職が一緒になって楽しませていただきました。
次回は令和6年5月18日(土)の開催を予定しております。

11月10日～12日　宝物風入れ展

毎年恒例の宝物風入れ展を3日間開催しました。川田奥藤第二分店さんによる蕎麦奉納と蕎麦ふるまいや茶道表千家のお茶人さんによる茶席など、年に一度の行事を盛り上げていただきありがとうございました。ボランティアスタッフもついに50名を超え、多くの人に支えられ助けられながらこの行事が成り立っており感無量です。毎年ご荷担をいただき感謝申し上げます。しかしながら2年前の来場者600名をピークに昨年今年と人数が大きく減少し、田舎に人を呼ぶことの難しさを痛感しております。今後は内容や告知についても大きく改善していかなければいけないと感じております。

11月19日　坐禅会を浄妙寺で開催

もう5年以上になる某企業の坐禅研修を年に3回ほど行っています。毎回20名以上が参加され栖雲寺で坐ることを基本としておりますが、鎌倉で集合し建長寺をお借りして坐ったこともあります。今回は鎌倉五山の浄妙寺さんの本堂で坐禅をさせてもらいました。場所を変えると本堂内の微妙な明暗や空気の違いが鮮明に感じられ、新鮮で緊張感をもって坐禅に取り組むことができるのでとても得難い体験です。浄妙寺様、誠にありがとうございました。
機会があれば栖雲寺坐禅会でも出張坐禅をしたいです。全国のお寺様へ道場破りに行くかもしれませんが、その際はどうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

11月22日　映画のロケ地に

庫裏の客間を使って映画の撮影が行われました。2025年の公開予定であり現時点でメディア発表されておりません。そのため作品名や撮影に来た役者さんの名前をまだ書くことが許されておりませんが、多くの映画やドラマそして約10社ほどのCMにも起用されている有名女優さんの主演です。映画のラストシーンが撮影され、クランクアップにも立ち会いました。
発表されましたら、たよりでもお知らせいたします。

11月28日　甲州市おもてなしガイド養成講座

ボランティアガイドの研修会が行われました。恵林寺、国宝大善寺、ワイナリーなど市内各所で6回開催される研修のうち、栖雲寺は第3回を担当。庭園・宝物館の説明や寺史講話だけでなく、坐禅と食作法を体験してもらいました。食事の提供に限界があるため定員20名としてあったのですが甲州市が28名も受け付けてしまい、急遽建長寺から足りない分の持鉢（じはつ＝お寺専用の食器）を借り、数名のお手伝いも頼んでなんとか無事終えることができました。今回の研修内容を今後のガイドに役立てていただけたら幸甚です。

11月29日　古刹をつなぐ懇親会

言わずと知れた信玄公菩提寺『恵林寺』の古川老大師、隣接し文化財を多く有する観光寺院真言宗『放光寺』の清雲住職、栖雲寺隣山で勝頼公菩提寺曹洞宗『景徳院』の米山住職が地元の有志達と不定期で懇親会をされていたそうです。景徳院さんにコラボ御朱印の話しを持ち込んだ際に、この懇親会へのお誘いをいただく仏縁に恵まれましたので、今回参加して多くの方と縁を結んでまいりました。今後甲州市を代表するお寺さんたちと連携し、栖雲寺だけでなく甲州市全体で盛り上がっていけたら素晴らしいことだと思います。

11月30日　鎌倉禅研究会の講師を務める

鎌倉の大本山建長寺で毎月開催され、今回が第191回だった鎌倉禅研究会の講師を務め、『臨済宗幻住派の天目山栖雲寺について』と題し講義をさせていただきました。大学受験以来でこんなにも勉強をしましたし、紙の資料だけでなく、パワーポイントもかなり作りこみました。聴講者からは是非お寺に訪れてみたい、などのうれしい感想を頂戴しました。このような時でもないとほとんど勉強をしないので、今回とても良い機会をいただき感謝申し上げます。

12月15日　投句

もしも俳句を詠めたなら、天目山なんてネタが尽きないから楽しいだろうなぁ。いつか時間ができたら挑戦を・・・と思いながら言い訳ばかりで踏み出せないまま幾星霜。
長年活動されている俳句の団体に所属する某和尚様に誘われました。これまでにも興味はあったのですが機会がなく、しかしこういうご縁に乗っかり勢いで参加してしまわないと一生やらずに終わってしまうと思い、拙僧には到底センスがあるとは思えませんが俳句を始めました。指定されたお題の季語を詠み込み早速投句しました。結果は言わずもがな。
栖雲寺でも俳句の会などができたら素敵だろうなと思います。